

芸閣

～図書館だより～

第8号
2021年1月
桐蔭図書館発行

芸閣...「うんかく」と読みます。
書庫、書斎という意味です。
(「芸」は書籍に挿む虫除けの香草)

十二支のはなし

お正月になると、急に人気者になるのがその年の干支(えと)。今年はウシ年です。動物のウシは「牛」と書きますが、干支のウシは「丑」と書きます。十二支は、子(ね)、丑(うし)、寅(とら)、卯(う)、辰(たつ)、巳(み)、午(うま)、未(ひつじ)、申(さる)、酉(とり)、戌(いぬ)、亥(い)。この十二支がどのようにして決まったか知っていますか。日本ではこんな民話として伝わっています。

昔、神様が動物たちを集め、十二支を決めることになりました。その日にちを忘れてしまったネコはネズミに聞きに行きました。ところが、ネズミは一日あとの日を教えたのです。十二支を決める前日、ネズミはウシがもう神様のもとに向かっているのを見つけました。ウシは足が遅いため、みんなより先に出発したのです。ネズミは、そつとウシの背中に乗っかり、神様の前に着くなり、背中から飛び降りて一番乗りになりました。そのため、ウシは二番。続いてトラやウサギたちがやって来ました。翌日に着いたネコは十二支に入ることができませんでした。このときから、ネコはネズミを見ると追いかけて回すようになったとか……。



図書館講座

12月24日に
開催しました

宇野教頭先生に「パワーポイントは鵞鴉の夢を見るか(1)」という演題でお話をいただきました。主に、人と会話するときには押さえておくべきポイントやパワーポイントで表現するにあたっての可能性について熱く語っていただきました。

そのなかでも印象的な話は「結論を先に端的に言ったあとに理由を言い、その後もう一度結論を言う」という「ピラミッド型展開」です。この方法は相手に伝えたい事を強く且つ早く伝えることができます。私自身誰かと話すときに結論や理由がごちゃごちゃしていたり、だらだら喋ってしまったりと上手く相手に考えを伝えられないことがあります。これから特に重要な場面では、教えて頂いたポイントを押さえ、上手く話を進められるように頑張っていきたいです。

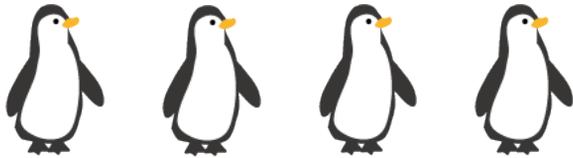
(1年 谷口)

(裏面に新しく入った本の紹介を載せています)

新しく入った本の紹介

日本の小説

- 『水を縫う』 寺地はるな 著 集英社
『四畳半タイムマシンブルース』
森見登美彦 著 KADOKAWA
『株式会社タイムカプセル社』
喜多川泰 著 ディズカヴァー・トゥエンティワン
『わたしの美しい庭』 凧良ゆう 著 ポプラ社
『滅びの前のジャングリラ』
凧良ゆう 著 中央公論新社
『犬がいた季節』 伊吹有喜 著 双葉社
『とわの庭』 小川糸 著 新潮社
『ブラック・ショーマンと名もなき町の殺人』
東野圭吾 著 光文社
『夜明けのすべて』 瀬尾まいこ 著 水鈴社
『谷根千ミステリ散歩』
東川篤哉 著 KADOKAWA
『神さまのピオトープ』 凧良ゆう 著 講談社
『おいしくて泣くとき』
森沢明夫 著 角川春樹事務所
『オルタネート』 加藤シゲアキ 著 新潮社



言語

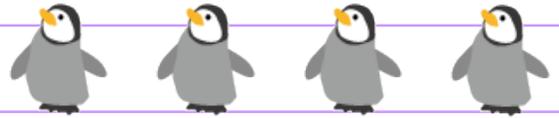
- 『絵でおぼえる英会話』 エリー・オー 著 文響社

スポーツ

- 『うっかりオリンピック』 こざきゆう 著 集英社

自然科学

- 『魔法のカラダスイッチ大全』
那須公宏 著 自由国民社
『自閉症は津軽弁を話さない』
松本敏治 著 福村出版
『食べるってどんなこと?』 古沢広祐 著 平凡社
『心の病気ってなんだろう?』
松本卓也 著 平凡社
『人体、なんでそうなった?』
ネイサン・レンツ 著 化学同人



社会科学

- 『アメリカの高校生が学んでいるお金の教科書』
アンドリュー・O・スミス 著 SBクリエイティブ
『友だちってなんだろう?』
斎藤孝 著 誠文堂新光社
『「愛」という名のやさしい暴力』
斎藤孝 著 扶桑社
『話し方で損する人得する人』
五百田達成 著 ディズカヴァー・トゥエンティワン
『これからの男の子たちへ』
太田啓子 著 大月書店
『5分でわかる10年後の自分2030年のハロー
ワーク』 関子慧 著 KADOKAWA
『「地方国立大学」の時代』
木村誠 著 中央公論新社
『性の多様性ってなんだろう?』
渡辺大輔 著 平凡社
『子どもを守る仕事』 佐藤優ほか 著 筑摩書房
『障害者とともに働く』 藤井克徳ほか 著 岩波書店